

問

- (一) ア 致 イ みが ウ 口頭 エ ごいりよく オ 漫然、または慢然 カ てぢか

(二) 日本にいる限り英語が塾や予備校をふくめた学校などの教室で学ばれる外国語であつて、教室を出たところは日本語の世界であるなかで生活言語として学ばれることはないこと。

(三) ある単語の文脈上の意味を見定める力とは、その単語がどのような意味の広がりを持っていて、同じような意味を持つ単語とどのような関係にあり、どう使い分けられるのか、またどのような表現のなかで用いられるのかといったことに関する知識を表現のなかに生かしてゆける能力と、語形を変化させるといふ応用力である。

(四) 高等学校で身につけておくべき英語力とは、教室の外では日本語の環境におかれているという基本的な条件のもとで、「聞く」「書く」「話す」をふくめて総合的な英語力を伸ばしてゆくために大事な基礎となる、文法の知識をもとに、構文を把握し、文脈を読みとつて、単語の意味を見定めてゆく語彙力をもなった読む力をいう。

(五) 英語を読む力の重要性

問

(一) 他国の国民とは地理的、言語的、文化的な隔たりがあるために、共通の公平な観察者の判断基準を形成しにくく、各国の国民が他国民に対して「国民的偏見」をもつために、その判断基準があっても自国民に対して用いるそれを他国民に対しては用いない傾向があるから。

(二) 人間は、祖国への愛を基礎づける個人の愛着を、「慣行的同感」の頻度の高さにしたがって、自分自身、家族、友人、隣人、国の順でもつから。

(三) 公平な観察者が是認する、自分やまわりの人びとへの愛着を基礎とすると超えて、自分や自分が愛する人びとの命を犠牲とする祖国への愛。

(四) 祖国への愛が、自分や家族、自分が愛する人びとの幸福に影響を与えるものとしての国に対する愛着という、自然で現実的な範囲を超え、国がそれ自体で価値をもつという、仮想的な偏愛となる場合。